

お陰様で 本堂屋根瓦葺き替え工事が 概ね完了しました



Soto-Zen Jyousenji

浄泉寺報

第 4 号

間もなく梅雨もあけ、本格的な夏となり、またお盆の季節がやってまいります。檀信徒の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今回の寺報は、皆様にご協力賜りました本堂屋根瓦の葺き替え工事の終了を待って、そのご報告を兼ねて発行したいと考えたため遅れてしまいましたこと、心よりお詫び申し上げます。工事の遅れは、やはり四月の天候不順の影響が一番の原因でありました。

旧瓦を降ろしてみますと、本堂屋根は永年の風雪により、思っていた以上に老朽化が進んでおった様でございます。しかしながら、今般の葺き替え工事は、今後の自然災害にも十分対処できる工法で行っていただきましたので、従来よりはずっと永く持つということでございます。

皆様の篤い信仰に心より浄泉寺本堂は、まさにその面目を一新する事ができました。皆様方から頂戴いたしました浄財は、お陰様で当初の予定を上回り、二四四檀家、七三三檀信徒、三、〇一六枚という結果でございました。本堂に有難うございました。心より感謝申し上げます。

す。その一枚一枚の瓦に住所、お名前、祈願文を墨書し、本堂屋根に乗せました。浄泉寺の本堂とともに末永く残ることでしよう。

さて、浄泉寺の本年の主催事業でございますが、去る四月十日に実施しました降誕会（花まつり、お釈迦様の誕生日のお祝い）では、箏奏者海宝幸子さんをお迎えし、約五十名の檀信徒の皆様の参加を得、素敵な演奏会となりました。この後、八月十五日のお盆の万燈会では、琵琶奏者の岩佐鶴丈さんを迎え、平家物語や怪談耳きれ芳一などを演じていただく予定です。そして秋の観月会も篠笛などを聴くイベントを実施したいと考えております。是非ご参加ください。

更に本年は浄泉寺ゆかりの寺である小田原の大雄山最乗寺開基六〇〇年大遠忌が予定されておりますことから、十一月に一泊二日の参拝旅行を実施いたします。こちらも是非ご参加いただければと思います。

おわりに、猛暑に向いますので、ご家族様の皆様のご自愛ご健勝を、心からお祈り申し上げます。

住 職 合 掌

当面の行事等

8月 7日～8日 新盆棚経

8月 13日～15日 棚経

8月 15日 万燈供養（琵琶演奏会）

午後6時～午後11時頃まで

（琵琶演奏会午後7時から8時まで）

8月17日 施食会 午前9時から

9月20日～26日 秋彼岸会

10月23日（土）観月会イベント

（別途ご案内申し上げます。篠笛演奏など）

10月25日 梅花流千葉県奉詠大会（御詠歌）

11月21日～22日 小田原最乗寺団参旅行

（第3教区主催事業です）

天童山大雄院と大雄山最乗寺

天童山大雄院

大雄院は、茨

城県日立市宮田

町（常陸国多賀郡

宮田村字杉室）に

ある浄泉寺の本寺

です。この大雄院

の三代目の住職

断江周恩大和尚

が、浄泉寺の初代

住職、ご開山です。

一般の家での本家

と分家の関係が寺

院では、本寺と末

寺の関係となりま

す。つまり、ここ

では大雄院が本寺

で、浄泉寺が末寺

ということになり

ます。

大雄院は、後土

御門天皇の文明二

年（一四七〇年）

開山南極寿星禅

師の徳風に帰依し

た友部山ノ尾城主

小野崎山城守によ

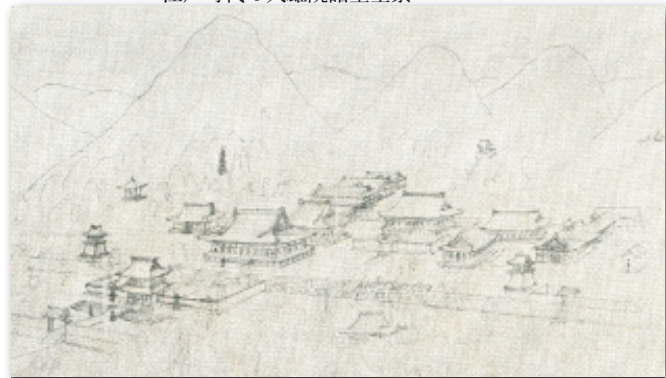
り付近の地数十町

歩が寄進され、堂

も有名であります。

開山の南極禅師は、大雄山

江戸時代の大雄院諸堂全景



宇を建設し天童山大雄院と名付

最乗寺（神奈川県南足柄市大雄

町）八世で伊豆国に最勝院（修

善寺）を開いた吾宝禅師の門下

五哲の一人に数えられた希代の

英衲でありました。そして法脈

をたどれば南極禅師は、道元禅

師の十世にあたります。禅師は

深山幽谷の杉室の地に隠棲して

いましたが、いつしか禅師を

慕って多くの弟子が集まり、こ

の地方の曹洞宗教化の中心地と

なって、多くの秀才を輩出しま

した。その代表的な一人が直弟

子の浄泉寺開山断江和尚であり

ました。また、南極禅師は、そ

の後最乗寺の第十六世となって

いるなど、大雄院の歴代住職の

何人もが最乗寺の住職になって

おり、関係の深い寺であります。



現在の大雄院本堂（昭和48年落成）

大雄山最乗寺 結界門



大雄山最乗寺

最乗寺は、曹洞宗大本山総持寺の直末で、関東きつての名刹であります。室町時代の初め、

応永元年（一三九四年）に開か

れました。開山は、了庵慧明禅

師といい、鎌倉の建長寺で出家

し、その後曹洞宗の峨山禅師に

ついて参究、更に峨山禅師の法

を汲む通幻寂霊禅師の門下とな

り、十哲の一人と仰がれた方

です。以後いくつかの寺の住持を

つとめた後、郷里の伊勢原に帰

り、修行を続けていたおり、山

深い地で靈験を得て一寺建立を

発願しました。禅師は、昼は山

を登って諸堂の造営に、夜は坐

禅三昧という禅師を助けたのが

了庵禅師と同郷の、今日一般に

「道了さま」と尊崇されている

妙覚道了大薩埵でした。道了

尊は怪力無双、靈験豊で日夜了庵禅師を助け諸堂を完成させました。その霊力の跡が今も境内の随処に残されていると言われている。最乗寺が道了さんとして今日もなお信仰を集めているのは、了庵禅師が亡くなられた時、道了尊が「今より先、永遠にこの山に在って寺を守護し、人々の苦を救う」と宣言され、五つの誓願を立てられたからと言われています。すなわち一、信じ従う心を持って我を念ずる者には八苦を除く。

二、恩を知り慈悲の心を持つ者には七難を除く。

三、父母、師を敬い平和の心を持つ者には悪病を除く。

四、おごらずそしらず正しく生きる心を持つ者に人々の敬愛を与う。



五、勤労に励む者には福德を与う。

この誓願が多くの人々の心をとらえ、今なお終日参拝客が絶えない様は、道了尊に対する民衆の信仰の篤さを物語っています。

最乗寺参拝旅行のご案内

今年は、開山了庵禪師の六百回大遠忌となり、教区団参として総持寺と最乗寺の参拝旅行を計画しました。特に最乗寺は浄泉寺と有縁の寺でありますので檀信徒の皆様には、是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

期日 平成22年11月21日(日)
22日(月)

費用 一人 二万七千円

宿泊 静岡県土肥温泉

募集人員 二〇名〜三〇名程度
(浄泉寺割当分)

申込期限 平成22年9末日

お盆の迎えかた

お盆は、一年に一度、八月に、その家のご先祖をお迎えして十分な供養をする時です。地方により、またその家の習慣により、その迎え方は異なりますが、その一例を紹介します。

八月十三日の夕方、家の門口でオガラ(皮をはいだ麻の茎)を焚いて精霊(祖霊)を迎える風習や、お墓参りをし、墓前で火を焚いて先祖の霊を迎える習慣があります。これらを「迎え火」といいます。

十四日、精霊はその家に留まるとされ、仏壇や精霊棚、また墓前に灯明や灯籠をとすのは、万灯の一つとして精霊に供養する意味があります。

十五日の夕べ(または翌早朝)ご先祖様はその家を去るといわれておるところから「仏送り」ともいい、「送り火」を焚き、お供えをし、灯籠を流したり、水辺の無縁の霊に施しをする習慣があります。

しかし昨今では、河水を汚すのを避けるため、供物を河に流さず適宜処分するようです。

浄泉寺大施食会と 棚経のお知らせ

施食会

◎ 八月十七日(火)
午前九時から

当寺本堂でお勤めします。

施食会は、もとは施餓鬼といっておりましたが、現在曹洞宗では、人権的見地から「施食会」と呼ぶようになっております。近年は新盆を迎える方の参加が大半ですが、この施食会は、縁のある無しを問わず、広く諸精霊に飲食を施す法会です。他のためにする供養は、自分自身に積む善徳となります。《施す手は欲を捨てる手。捨てる手におのずと福満ちる。》です。是非、ご参拝ください。

施食会での、ご先祖様の卒塔婆供養をお勧めいたします。供養料は、一本三千円です。

棚経

◎ 八月十三日(金)

午前 伊篠・飯仲地区
午後 中央台・東酒々井・その他酒々井地区

八月十四日(土)

午前 並木町・飯田町
成田ニュータウン地区

午後 富里・佐倉地区

八月十五日(日)

午前 その他地区

※ 不在の方は、必ずご連絡をお願いいたします。原則として日程の変更は、お受けできません。この日程で不都合の方につきましては、本年度より八月十三日から十五日までの毎日午後五時より当寺本堂にて、合同でご供養いたします。午後四三十分までに、お越しの上お申し込みください。

・ 供養料 三千円以上
・ 卒塔婆つき供養料 五千円以上

※ 卒塔婆つき供養の場合は、当日申し込みはできません。

◎ 新盆について

今年新盆を迎えるのは、平成二十一年七月より平成二十二年六月までに逝去された方です。

(お盆までに四十九日忌を終えられた霊位です。)

◎ 新盆棚経

八月七日(土)
八月八日(日)

※ 対象となるご家庭には、別途詳しくご案内申し上げます。

御霊おくり 万燈会

今年の万燈会は、琵琶奏者の岩佐鶴文氏をお招きし、平家物語などを演じていただきます。

日時 平成22年8月15日(日)
午後7時から8時まで

受付 午後6時30分から

場所 浄泉寺 本堂内
イス席 約80席

入場 無料

演目 平家物語より「壇ノ浦」「祇園精舎」「耳きれ芳」など

※ 予約は、不要ですが、イス席をご希望の方は、事前にお申込ください。本堂に入りきれない場合は入場制限があります。



琵琶奏者 岩佐鶴文氏



本堂瓦葺き替え工事

決算報告

総予算額 九百四十五万円
うち浄財 六百三十二万円
自己資金 三百四十一万八千円
工事業者 (有) 岩野工務店
東京都葛飾区細田
工事期間 五月中旬から
六月下旬まで

以上のとおりご報告いたします。
大変有難うございました。

各種講座等のご案内

◎梅花流(曹洞宗) 御詠歌講

毎月第三土曜日
午後二時から午後四時まで

◎坐禅会

毎月第一日曜日
午前六時から午前八時まで

◎写経会

毎月第三日曜日
午後二時から午後四時まで

※ これらの講座は、日時が変更となる場合がありますので、お問い合わせください。

釈迦降誕会 浄泉寺花まつり

去る四月十日(土)、本堂に花御堂を飾りお釈迦様の像(誕生佛)をおまつりして、浄泉寺花まつりが行われました。花まつりの法要の後、参拝の皆様がお釈迦様に甘茶をかけたり、箏の調べに酔い痴れたり、楽しい有意義な一日となりました。



演奏する箏奏者 海宝幸子さん

暖かい春の一日、優しい風が吹き渡るように、箏の優雅な調べが本堂から境内一体に流れました。

国内外で活躍する海宝幸子さんの素晴らしい演奏と春に因んだ「さくらさくら」などの曲に、



当日参拝された皆様方(法要中)



お弟子の菅井さやかさん(右)と

参加したお客様は、大いに楽しんでおられました。演奏は休憩を挟んで一時間以上聴かせていただきました。また、途中からはお弟子さんの「成田市並木町在住の菅井さやかさん」も加わり、合奏曲も披露いただきました。

仏教豆知識

中陰以後の追善供養

四十九日の満中陰法要の次に営まれるのは、百か日忌です。これは中国の追弔儀礼の「卒哭忌」から来たものです。「卒哭」というのは、この百か日(本は三ヶ月の日数)を区切りとして、時を定めずに哭くのを卒えるという意味で、それ以後は、故人を偲んで哭くとしても、朝夕だけに限るとする儀礼です。

次に、満一年後の命日に行う法事を「一周忌」といい、別名「小祥忌」ともいいます。「小祥」の祥は「さいわい・よろこび」の意味で、喪服を脱いで、吉服(普通の着物)に替えることを意味します。

次に、三回忌は満二年後、数えて三年目の忌日で、一周忌の「小祥忌」に対して、「大祥忌」といいます。

ここで、「二年目の年忌なのに、どうして三回忌というのだろうか?」という疑問が起こると思います。

年忌の数え方は、次のように

考えるといいでしょう。

まず「お葬式」が、すでに第一回目の「命日」の法要であると考え、数に入れるのです。従って「一周忌」は二回目の忌日ですが、この時だけは「一周忌」という言い方をし、「二回忌」とは言いません。しかし二年目の法事は、数えて三回目の忌日なので「三回忌」というのです。

以後、七回忌、十三回忌、十七回忌、二十三回忌、二十七回忌、三十三回忌とおつとめしますが、いずれも「お葬式」を含めて、数え年でかぞえます。仏教では何事も数え年でかぞえるのが基本です。

やすらぎは

ご先祖の供養から

平成二十二年 年回表

一周忌	平成二十一年
三回忌	平成二十年
七回忌	平成十六年
十三回忌	平成十年
十七回忌	平成六年
二十三回忌	昭和六十三年
二十五回忌	昭和六十一年
二十七回忌	昭和五十九年
三十三回忌	昭和五十三年